

今後の予定

【すくすくコホート三重】

今年の夏休みには、小学2年生約100名の観察を行います。2年生のほとんどの方には書面で同意をいただいて、知能検査を実施します。今回の検査は知能検査だけで1時間強かかりますので、三重県臨床心理士会に協力をお願いし、心理士さんたちの応援をいただきます。場所もいつもの観察室に加えて、当院の附属看護学校の部屋を借りて行います。NICU卒業の方の6歳の観察は、12月頃で終わります。夏休みはかなりハードなのですが、秋からは、夏までにとらせていただいた貴重なデータを分析に使えるように、確認と整理を行っていきます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学3年生				※郵送によるアンケートを実施予定(現在計画中)								
小学2年生				夏休みに観察を実施								
小学1年生 (NICU出身グループ)			郵送によるアンケート(春)					郵送によるアンケート(秋)				
6歳(年長) (NICU出身グループ)			※6歳のお誕生日ごろに観察を実施									

【武庫川チャイルドスタディ】

現在、6歳の観察が9割終了しました。これから6歳のお誕生日をむかえる方は、お誕生日前に観察日のご案内をさせていただきます。

平成25年度に小学校へ入学された方は、春と秋に就学後のアンケート調査を実施いたします(一斉郵送調査)。春のアンケートについてはすでにご自宅へ郵送させていただいております。返送が未だのご協力者様は、ご返送をお願いいたします。また、アンケート書類といっしょにお礼の品を選べるリストがついておりますので、一緒にお送りください。後日、お礼の品をお送りいたしますので楽しみお待ちください。

みなさまには、お忙しいところ恐れ入りますが、引き続き調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学1年生			郵送によるアンケート(春)					郵送によるアンケート(秋)				
6歳(年長)			※6歳のお誕生日ごろに観察を実施(郵送調査のみ参加の方はアンケートを実施)									

編集後記

平成25年度を迎え、すくすくコホート三重、武庫川チャイルドスタディの研究にご参加いただいているお子さまの大部分が小学校へ入学されました。この研究の準備期間なども含めると、今年で約10年にもわたる追跡研究となり、日本ではこれまでにない長期研究となっています。

今年度はこの研究にとっても節目の年となります。さらに研究の継続・延長ができるよう国に申請すべく、グループ一同努力をしております。お子さまたちと思春期をともに過ごしながら、小学校から中学校への変化や、勉強の仕方などについての研究を進めたいと願っております。いつの日か、あの小さな赤ちゃんたちが一同に会して研究発表を・・・そんな日を心に描いてがんばりたいと思います。

最後に、今後もみなさまにスムーズにご連絡ができるよう、住所や連絡先に変更が生じた場合は、各研究グループまでどうかご連絡をお願いいたします。

【すくすくコホート三重】

〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5 三重中央医療センター 臨床研究部内
TEL: 059-259-1211(代)

【武庫川チャイルドスタディ】

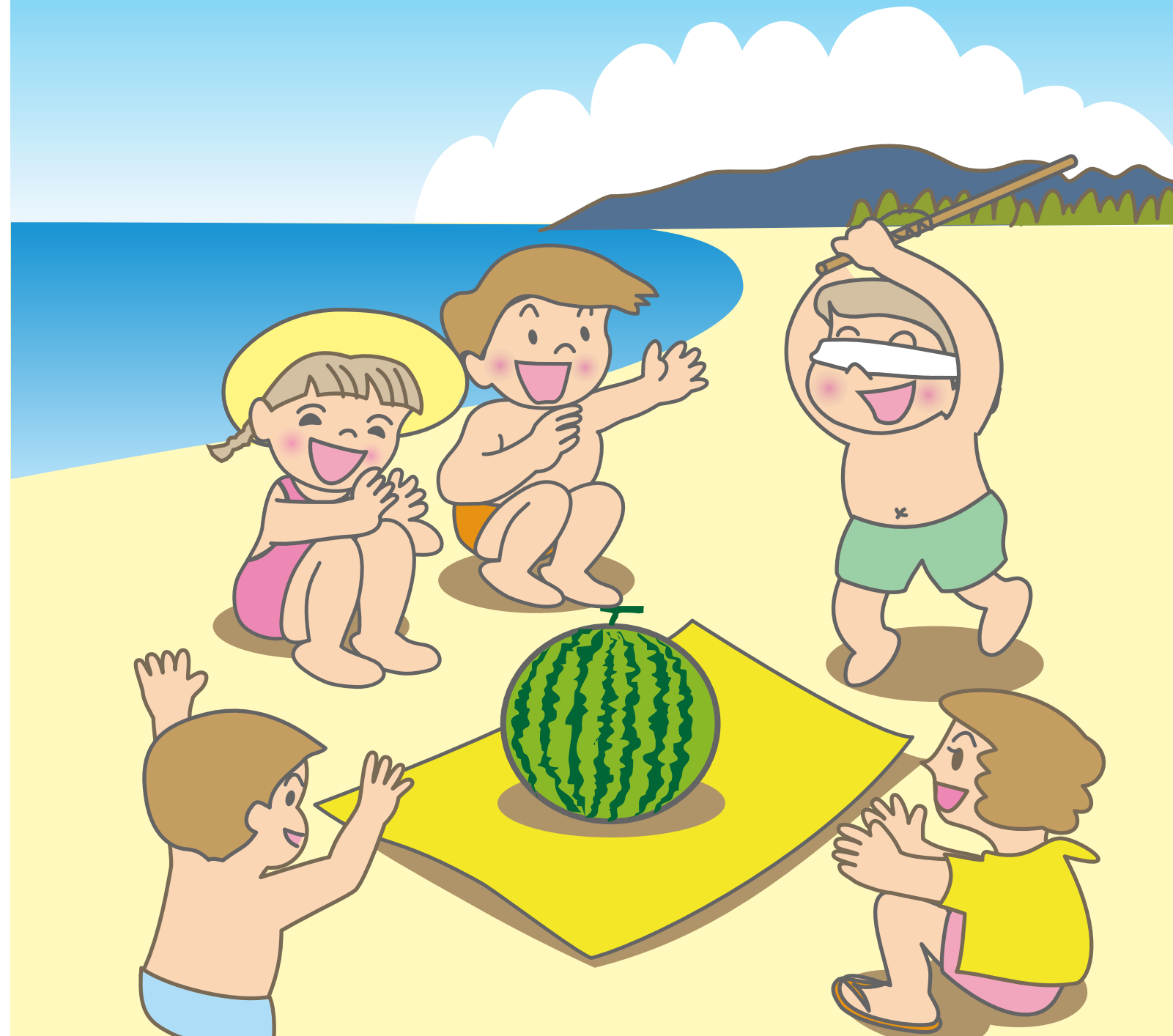
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 武庫川女子大学 子ども発達科学研究センター
TEL/FAX: 0798-45-9880



この研究は文部科学省の日本学術振興会 科学研究費補助金(課題番号 21243039)から研究支援をいただいています。



すくすくコホート ニューズレター



すくすくコホート三重・武庫川チャイルドスタディ



子どもの『やる気』についてのお話し

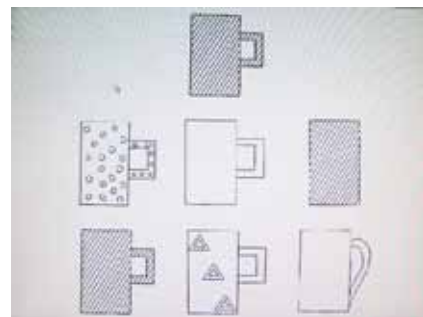
ご家庭で学習をさせようとしても、子どものやる気が感じられない、ちっともやってくれなくて困るということの時々お聞きします。ひよっとするとやる気を起こさせるために、「学校のテストで100点とれたらゲームソフトを買ってあげる」と言っておられるお母さまもいらっしゃるかもしれません。今回は、このような子どもの『やる気』について少しお話をさせていただきたいと思います。

そもそもやる気とは何なのでしょう。私たちが何か行動を起こす時には、その行動を引き起こさせる欲求があります。例えば、お腹がすいたり、のどが渇いたりした時には食べ物や飲み物が欲しいと思い、手に入れるために行動します。そして、その目標物が十分手に入ると、満足してその行動をやめます。ところが人間の場合にはこのような他の生物にも共通するような基本的な欲求だけでなく、人間だけが持っている地位や名誉、お金などを得たいという二次的な欲求を持っています。この、欲求を満たしたいという力がやる気の一部となっています。

このような欲求を満たしたいという力をうまく使って、子どもに何かさせようとする場合があります。前述のゲームソフトというごほうびは、ゲームソフトが欲しいという力を、勉強しようとする力につなげられるよう、うまく利用するというやり方です。

さて、ご協力いただいている研究では、5、6歳時点でお子さんのやる気を調べる課題を加えています。これは、観察時にお母さまがインタビューを受けているあいだに行っているものです。複数の絵の中から目標となっている絵と同じ絵を見つけだすという簡単な課題です。子どもたちの多くは喜々として課題と向き合ってくれます。この課題は、それが出来たからといって何かもらえるわけではありません。それなのに、子どもたちは一所懸命になって課題をやり遂げようとします。ここにはどのような仕組みがあるのでしょうか。

それは、知らない課題であるが、出来るとおもしろい。おもしろいから続けてやる。次に何が出てくるのだろうか。このワクワク感の連鎖なのです。そして、これが子どもたちにとってのやる気のエネルギーになっているのです。知らないことを知りたい、やり遂げたいという欲



求がやる気につながっているのです。これは専門的な言葉で、'内発的動機づけ' といいます。自分が望んでやるという気持ちです。さらに、何かやり遂げたぞという気持ち（達成感）、自分はできるんだという気持ち（効力感）が次の行動を作り出しています。不思議なことに、課題に取り組んでいる子どもたちは、おもしろさが分かってくると、速く、正確に課題を遂行しようとするようになります。素早く正確にという、学校での学習活動の準備が整ったのです。

では、このようにワクワクして学習に取り組めるようにするためにはどうしたらよいのでしょうか。まずはお子さまがどうしてやる気にならないのかよく注意してみる必要があります。他にもっとワクワクするようなことが生活の中にあつたり、あるいは、お友だちとケンカしたとか、体調が悪いとか、エネルギーを別のことに取られていないでしょうか。そのような場合、子どもたちは、大人のように「それはそれ」というように気持ちの切り替えがまだできないのです。

そして、お子さまが取り組まなければならない課題はどうでしょうか。通常、ワクワクするような課題というのは、自分のできることもちょっと難しいことです。易すぎるものは飽きてしまいますし、難すぎる（ように見える）ものは失敗するのが見えていると取り組めなくなってしまいます。目の前の課題は適切なレベルでしょうか。もしかしたら、少し戻ってみることが必要かもしれません。また、お子さまが『難しい』と思い込んでいる場合は、やり方の復習をするなど、ちょっと背中を一押ししてあげないといけなかもしれません。もちろん、ごほうびが威力を発揮することだってあるでしょう。とはいえ、大切なのは自分でできた！ということです。

さらに、自分で最後まで取り組めるよう励まし、また、自分ができるんだという気持ちになれるよう丁寧に言葉をかけてほめてあげましょう。勉強ってワクワクするものなんだな、という気持ちは、これから続く長い学びの生活の基礎になっていくことでしょう。



研究統括からのごあいさつ



河合 優年

ご協力いただいているお子さまたちは、この春、大半が小学校へ入学されました。一番早いグループでは4ヶ月の赤ちゃんから見ていた子どもたちが、小学校3年生になっています。この時期は、ギャングエイジと呼ばれ、友達との閉鎖的な秘密集団を作り始めます。少しずつ親離れの準備段階に入っていきます。生涯付き合うような友だちができるのも、青年期についてこの時期が多いと言われていています。将来何になる、などということも、自分から言い始めます。ちょっと大人になってきたなあという感じが出てきますね。

この春、小学校に入学されたお子さまの保護者の方は、上級学年を見るといかにも子どもたちが幼いように見えるかもしれません。でもあつという間に成長していきます。私たちも、この急激な変化の時期をしっかりと捉え、赤ちゃんの時から続く発達地図作りを完成させたいと思っています。これからも、ご一緒くださいますようお願い申し上げます。

武庫川 チャイルド スタディ (河合・難波)

◆観察スタッフの紹介◆

今回のスタッフ紹介は、観察ではインストラクターをしている難波です。

「明日、観察のインストラクター入ってもらってから」着任したその日、言い渡された言葉です。何の事かもわからないまま私の仕事は始まりました。後から分かったのは、すすくコホート三重で次のような実験をするか検討するための観察だった、ということでした。その後、武庫川チャイルドスタディが始まるということで、右も左も分からないまま保健所に宣伝に出かけ、続々とご応募のお葉書が、そして次々に赤ちゃんがやってきました。あれから7年、先頭のお子さまは小学校に入学されました。いつの間にそんなに時間が経ったの？ というのが正直なところなんです。



河合、石川、難波、大和、佐々木

その間、伸ばしっぱなしだった髪を切りました。見かけ上はこれが一番大きいかもしれません。そして、私事ですが、子どもができました（このために、予定の変更などをお願いしたみなさま、ご協力ありがとうございました）。0歳児を抱えて、あのたくさんの質問項目に答え、時間通りに観察室に来ていただけるといことがどんなに大変なことか、改めてお母さま方、ご家族のみなさまのご協力が頭が下がる思いがいたしました。

さて、観察ではインストラクターとしてみなさまにお会いしていますが、日ごろはデータ処理をしたり、分析したりという業務をしています。そして、某K先生が「こないだのあれ、□※○×※△◆…しといてくれっ！」と謎の暗号を残して去って行ったとしても、某I先生が「今度観察室に赤ちゃんを連れてきてもらうんだ〜」と突然約束をとってきたとしても、慌てず騒がず、ちゃちゃっとデータセットを作ったり、ささっと文章を添削したり、ちよいちよいと記録票を用意したり、そんなことも大事な仕事です。その他にも、調査の計画など、色々な種類の仕事が飛び込んできます。ここでの私の仕事を一言でいうなら「夢をカタチに」。こんなことができたらいいな、をいかに実行可能な形にするか、そして継続可能な形を作るか。これからも、この研究グループの大きな夢をスタッフと一緒にコツコツとカタチにしていきたいと思っています。



山本初実



田中滋己

◆観察スタッフの紹介◆

こんにちは。三重グループの山川紀子です。三重の協力者のみなさまとは長い方ももう8年もお付き合いいただいていますので、今さらの感もありますが、改めて自己紹介をさせていただきます。私は研修医だった2年間を除くと、生まれた時からずっと三重に棲息しており、主に津市の近隣で働いてきました。3人の子持ちですが、1人目が生まれた時に大学に戻って

発達外来の手伝いを始めたのがきっかけで、気がついたら発達関係や乳幼児健診の仕事がメインになっていました。性格的にはこのような気長にじっくり見ていく仕事は全く向いていないと思っていたのですが、人生どう転ぶかわかりません。

発達外来では配慮や支援が必要なお子さまの成長をのんびり見せていただいているのですが、乳幼児期からお付き合いの方の中に、高校を卒業する人がついに現れました。私も年をとるはずですが、元気なお子さまたちの育ちをゆっくりいねいに見ていく、という経験は（自分の子どもはほつたらかしてました）今までほとんどなかったもので、このコホート研究ではとても貴重な経験をさせていただいています。発達障害についてメディアでさかんに発信されていますが、どういう目線で子どもを見るかによってずいぶん認識が変わるんだ、ということがこの年になってわかってきました。子どもは育つんだ、ということをおかげで改めて感じています。



森、大谷、山川、杉野、西

夏休みには2年生と6歳の約110名のお子さまにまたお会いできます。夏バテしないようがんばりますので、みなさまも元気にお越しくださいね。

すすく コホート 三重 (山本・山川)